

都道府県別賞一等

祖母に認知症の保険を勧めたら……

静岡県 静岡市立城内中学校 三学年

長岡 柚奈

認知症——脳の病気により、認知機能が低下して、もの忘れが増えたり、新しいことができなくなったりする状態。

これは、今から一年前のこと。中学二年の夏休み、私は「かけこまち七間町」という場所で静岡市が主催している、認知症ジュニアサポーター養成講座を受講した。生命保険について調べているとき、この認定を取得した私にはなじみのある「認知症」という言葉が目がとまった。『えっ！認知症の保険ってあるの？』驚きでいっぱいだった私は、早速祖母に電話で伝えた。

「もしもし。ゆなです。認知症の保険が三年前に出たらしいよ。入ったほうが良いんじゃない？」

すると、それを聞いた祖母は、

「もう入っているよ。心配してくれてどうもありがとう。」
と、驚いた素振りもなく、淡々と答えていた。

祖母にはいつも学校で学んだことや、スマホのことなどを教えている。そんな私は、祖母が認知症の保険について知っているとさえ思えなかった。そして、その保険について何も知らないだろうと思って電話をしたのに、拍子抜けしてしまった。聞くと、認知症の保険が出た時から加入をしていたらしい。

祖母が認知症の保険を知ったのは、保険会社の〇〇さんが家に来て、いち早く教えてもらったからだろう。一人暮らしをしている祖母にとって、認知症や保険の情報など、自分から取りに行かないかぎり、知り得ない情報であるはずだ。そんな祖母に頼りになる保険プランナーの方が、近くで寄りそってくれていると思うと、なんだか心が温かくなった。

保険会社のビジネススタイルも、この時初めて良いものだと思った。プランナーの方は、ライフプランや年齢に合わせて、必要な保険を選んでおすすめしてくれる。説明を受けて、必要であるかどうかを本人が考えられる。それは、人生の少し先を見通し、必要な備えを蓄えることにつながると思う。

認知症サポーターの講座では、八十五歳以上の二人に一人が認知症を患っていると学んだ。その現状を知り、認知症という病気について、多くの人に関心を持つてほしいと思う。とても身近な病気なのに、備えていない人も多いのではないだろうか。調べてみると、ガン保険などの世帯ベースでの加入率は六十六パーセント。それに比べ、認知症の保険への世帯ベースでの加入率は、

第61回中学生作文コンクール

たったの六・六パーセント。思った通り、低い数字だと思った。ガンも認知症も発症率にさほど違いはないのに……。

現在は人生百年時代。誰でも介護をしたり、認知症になったりする可能性は充分にある。そういう中で、認知症の保険の存在は心強いし有難い。毎月少しずつかけ金を納めることにより、将来への備えに加え、生きる希望も育まれてゆく。もし、万が一患うことになったとしても、一時金を受け取ることができると、**“安心感”**を買うことができる。

認知症について知ってからは、日々の生活習慣を改善していくことや、認知症の保険への加入が必要だと考える。加入への意識が高まれば、世の中は幸せが溢れてくるのではないだろうか。

今できることを最大限に行っていこう。

私と一緒に！